

# 11.住み続けられるまちづくりを

## 「生物多様性のための30by30アライアンス」に加盟

「30by30アライアンス」とは、ネイチャーポジティブ\*実現に向けて、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。

30by30達成に向けた取り組みをオールジャパンで進めるため、環境省が発足した「生物多様性のための30by30アライアンス」(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>)に、慶應義塾も2023年5月に加盟しました。

生物多様性モニタリングを実施し、エビデンスに基づいた自然保護を実践していきます。

※ 日本語で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。  
(環境省ホームページ <https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/eye/20240214.html>より)



## みなさんmiraiプロジェクト

「みなさんmiraiプロジェクト」は、最大規模の慶應の森がある南三陸町(宮城県)において、南三陸「で」・「から」・「と」学ぶ、すなわち、震災を乗り越えて様々な問題に立ち向かっている現地の方々から学び、さらに日本・世界へと視野を広げて、未来に活かす知見を現地の方と交換する、学びの循環をつくらうとする取り組みです。研究領域・所属キャンパスの垣根を超え、多様な学生や教員が参加しています。

9月8～10日に、第一期生による合宿を行いました。塾生20名と代表の経済学部 津田真弓教授を中心とした教職員7名が、山主として南三陸町の木材の世界的FSC認証にも関わっている慶應の森を軸に、町のバイオマス構想・木材(南三陸杉)・漁業(養殖)・防災(避難所運営)と、南三陸町の方々の試みや経験を学びました。

## 受水槽を木槽に更新

志木高等学校の受水槽を木槽に更新しました。木製の受水槽は、耐久性・耐震性・抗菌性に優れているだけでなく、製造過程でもCO<sub>2</sub>排出量が非常に少ないことで地球温暖化防止に伴う温室効果ガスの削減に結びつき、環境性にも優れています。また、木槽材は基本的に自然木と付属品の鋼材に大きく2種類に分類することができ、経過年数により解体更新した木部はウッドチップなどに再利用したり、鋼材なども再形成して新たな製品として利用することもできるなど、各部材のリサイクル性も高い特徴があります。

今回更新した受水槽は、キャンパスのある埼玉県産の杉を使用することで、「地産地消」にも貢献しています。



## シンポジウム「BLS (Basic Life Support) 教育の実践と社会的意義」開催

2024年3月2日、慶應義塾一貫教育校BLS委員会と慶應義塾大学スポーツ医学研究センターは、シンポジウム「BLS (Basic Life Support) 教育の実践と社会的意義」を開催しました。BLSとは、心肺停止または呼吸停止に対してAED(自動体外式除細動器)以外の特殊な医療器具を使用しないで行う一次救命処置のことです。慶應義塾の一貫教育校では、2002年よりBLSの体系的な教育を開始し、小学校から高校の各段階で、心肺蘇生法、AEDの操作方法等の実習を行っています。本シンポジウムでは、教育現場におけるBLS教育のさらなる幅広い浸透を目指し、慶應義塾におけるBLS教育の紹介とBLS教育の意義について講演やパネルディスカッションを行いました。